

## はじめに

近年、社会が豊かになり、生活が便利になる一方で、子どもたちの様々な体験活動の機会が減少しています。国立青少年教育振興機構では、こうした現状に対して、より多くの子どもたちに体験活動を提供するため、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動を展開しています。その一環として、各地域の様々な青少年教育関係機関・団体等が連携し、地域で一体となって子どもたちに自然体験や生活体験、社会体験などの機会を提供する取組として、「地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業」が公募されました。

平成27年度、この公募に、国立若狭湾青少年自然の家が中心となり、福井県嶺南地域の近隣の青少年教育施設や関係団体等が連携し、『若狭の海湖山から「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会』を組織し、地域全体で体験活動を推進する取り組みを企画・提案し、採択されました。

主な取組としては、福井県嶺南地域の6つの博物館や青少年教育施設等が連携し、若狭地域の歴史、文化、自然の素晴らしさ、面白さを子どもたちに伝える「わくわく体験塾」、幼児期からの自然体験活動の普及を目指し海での体験を中心実施した、保育士・幼稚園教諭等が対象の「幼児の自然体験活動指導者研修」と年長児が対象の「わかさわん うみはともだち」の3事業となります。

その3事業のうち、幼児期からの自然体験活動に注目し、この若狭地域の美しく豊かな海を素材として実施した2事業とそれに関連する保育士・幼稚園教諭を対象とした調査について、報告をさせていただきたいと思います。

親から子へ、そして孫へ、この若狭地域の美しく豊かな海が伝えられてきました。これからは、社会全体で取り組んでいく必要があります。より低年齢期からこの海に触れさせたいと願い実施している本取り組みは、まだ本年度より始めたばかりの未熟なものかもしれません、私たちが実施した取組を記録し、こうして報告書としてまとめることが、体験活動の普及に寄与することを願っております。

平成28年3月

若狭海湖山から「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会  
実行委員長 国立若狭湾青少年自然の家 所長 西岡 裕介